

生産技術開発部

北沢 一幸

Kazuyuki Kitazawa

'97年における生産技術開発部の主な技術成果について述べる。

新製品開発に関する基本方針

- 1.開発期間の短縮
- 2.開発テーマの活発化
- 3.生産技術部門の積極的参画

をかかけ、「価値創造型の製品作り」を目指して取り組んできた。現在生産技術部門に求められる課題として、

- 1.地球環境保全技術
- 2.小型・軽量化技術
- 3.耐環境性技術
- 4.新工法開発技術
- 5.新材料活用技術

などの「生産技術要素開発」がある。これに加え、開発される戦略商品の「生産システム構築技術」も2本の柱として重要な位置づけとなる。

本稿では、「生産技術要素開発」として、新規開発された2種の複合アクチュエータと、これを搭載した新型インナー巻線機、および分割コア形状にあわせて、極太電線(マグネットワイヤ)を成形しながら巻線する機械を紹介する。

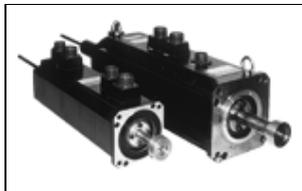
複合アクチュエータの開発

当社の既存ステータインナー巻線機の解決すべき課題として、

- 1.巻線整列度の向上
- 2.巻線占積率の向上
- 3.段取り性の向上

がある。これを解決する手段として、「直進・回転運動」を自由自在に制御することができる「複合アクチュエータ」を開発した。

本アクチュエータについて、社内設備の枠にとらわれず、一般市場でも広範囲の活用が期待でき、今後市場ニーズを喚起するような商品に育つことを期待している。



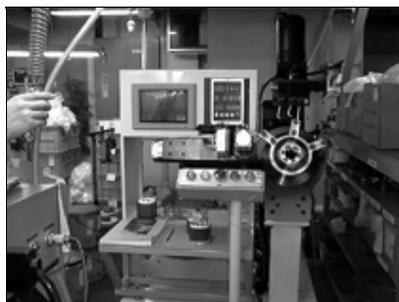
新型巻線機の開発

「生産技術要素開発」における、「究極の巻線技術」は永遠のテーマである。当社のACサーボモータ「Pシリーズ」におけるシリーズ化および、増産対応を目的に、

1.複合アクチュエータを搭載したインナー巻線機

2.大型分割コア用ワーク回転式巻線機の新型巻線機2機種の開発に成功した。

本開発の成果として、開発された巻線機は、生産ラインに投入され厳しい巻線仕様を達成するとともに、生産性向上にも大いに寄与している。



北沢 一幸

1972年入社

生産技術開発部

ファンモータ、ステッピングモータの生産技術を経て、要素技術・新製品の開発、および管理に従事。
